

122
1

增補

脈論口訣叙

清江

天文宿度之運陰陽榮衛
之行固非初學所當驟窺
苟不先哲其名義發其旨
趣者莫明理究其原也自
非診脈候治方藥者霜露
之恙因所底止矣是素問
靈樞之所由作也而初學
之人望洋向若故脈論一
書著其名義醫道十三科

之診法悉斷一病一脈彰
 標本也病者千變萬態而
 治法尤層見疊出孟子曰
 事在近不必遠求以斯書
 雖行萬里不必挾他書醫
 人本分事耳不可不亟傳
 也鑿梓使令闔境之醫少
 助云爾 皆
 天和三昭陽大淵獻

花洛書林玉池齋書

增補脈論口訣卷首

○目錄

- 九丁、 兩寸寸關尺三部ノ圖
- 九丁、 掌後ノ高骨ノ圖
- 九丁、 尺中尺澤ノ圖
- 十一、 人迎氣口ノ圖
- 十一、 十二經配當ノ圖
- 十一、 七診ノ法ノ事
- 十一、 男女左右ノ事
- 十一、 三部定位ノ事
- 十一、 寸關尺ノ事

十二

容排踈排ノ事

十三

呼吸定息ノ事

十四

三部九候ノ事

十五

左手ノ候ノ事

十六

右手ノ候ノ事

十七

浮沉ノ差別

十八

五臟ノ七神

十九

脈按様ノ辨

二十

胃氣ノ脈ノ事

二十一

諸病輕重ノ辨

二十二

男女ノ元氣

二十三

男女ノ分別

二十四

左右血液氣息

二十五

左右診察外感内傷

二十六

人迎氣口ノ候

二十七

榮衛ト云事

二十八

氣血虛實ノ辨

二十九

遲數寒熱ノ辨

三十

寒熱往來ノ辨

三十一

緊脈有処ヲ以痛処ヲ知事

三十二

弦脈有処ニテ筋氣ヲ知事

三十三

癥瘕積聚ノ事

九八、痰之鬱結所在ノ辨

九八、氣血虛實ノ辨

九九、右關脾胃ノ分別

九九、主客伏匿ノ辨

三十一、結促ノ遠慮

三十一、左右脈大小ノ辨

三十一、即タル病人ノ診脈

三十二、病ニ不相應ノ脈習

三十二、糸脈ト云事

以上首卷目錄終

○卷之二目錄

乙丁 四脈ノ辨察

三丁 四知ノ事

五丁 四季平脈ノ辨

六丁 四時ノ虛脈

六丁 四時ノ實脈

七丁 四季ノ脈好惡

七丁 弦鈞毛石ノ事

十丁 二十四脈ノ事 七表八裡 九道廿九歌

十九 奇恒六十首ト云事

十九 反關ノ脈ノ事

十九 同等ノ診脈

十九 反常ノ脈

二十 證ト脈ト相反ス事

二十 筋骨痛ノ例

二十 腫ト痛トノ辨因并滑瀉

二十一 虛煩ノ辨察陰陽ノ升降

二十一 一等各別ノ辨診

二十一 汗瀉ノ辨診

二十一 壯瘦細大ノ辨

二十一 虛里ノ脈ノ事

二十一 六部ノ脈診候

○卷之三目錄

乙丁 七種ノ死脈

三丁 關格ノ死脈

三丁 覆溢ノ事

四丁 代脈ノ事

四丁 陰陽病ノ寒熱ヲ辨ス事

五丁 脈動止テ死期ヲ知事

五丁 死脈意得ノ事

六丁 諸痛生死ノ診脈

九、 二十四脈病論付多タ藥註
三之目錄

○卷之四目錄

乙丁 婦人一切脈察ノ辨附胎脈

二丁 妊ハ娠ニサルノ辨并娠ニシテ

四丁 産前後ノ診候附經水不通附方

五丁 無子法ノ事

六丁 小兒虎口三關ノ脈察

七丁 同虎口三關ノ圖

七丁 同手指ノ脈紋八段錦

八丁 同面部ノ圖

八丁 同死候ノ辨

九丁 同診脈ノ事 并圖

九丁 同五脈ノ事

十丁 同動脈ノ事

十丁 同痘疹法ノ事

十一丁 瘡瘡出様五臟ノ見分

十二、 同虛實ノ事

十二、 同惡証ノ事

十三、 同重瘕ノ歌訣

十三、 同輕キ者ノ事

十三、 同輕瘕ノ歌訣

十三、 同禁物ノ事

十四、 同治療ノ法

- 十六 六脉部位定ノ事
- 十六 六脉部位相違ノ事
- 十七 十二經メクリノ事
- 十八 是動病所生病ノ事
- 十八 奇經八脉ノ事
- 二十一 諸病ノ指掌
- 二十二 七傳間藏ノ事
- 二十三 臟病府病ノ事
- 二十三 老人卧テ不寢事
- 二十四 若人寢テ不寤事
- 二十四 六問三法ノ事

○卷之五 附録 目錄

- 乙丁 醫家ノ必用
- 四丁 醫病家ニ入ノ法
- 五丁 諸病ノ惡候
- 六丁 五臟ノ絶証
- 六丁 諸病胃氣ヲタノム事
- 七丁 兩腎ニ補ノ分別
- 七丁 倉公三死ノ事
- 八丁 未病ヲ治スルノ說
- 八丁 六失ノ論
- 八丁 養生ノ論

十一、五臟ノ補瀉

十二、臟府ノ火ヲ瀉スルノ藥種

十三、十劑ノ事 附 五味ノ用

十四、食前後服藥 藥味藥氣ノ事

十五、生熟ノ分別 藥根三停

十六、湯丸散ノ論 附 煎藥生熟ノ辨 煎藥ノ間食法

十七、六陳八新十八返 附 銅鉄ヲ禁藥 禁火ノ藥味

十八、五臟寒熱ノ藥味

十九、諸灸捷歌 并 小兒

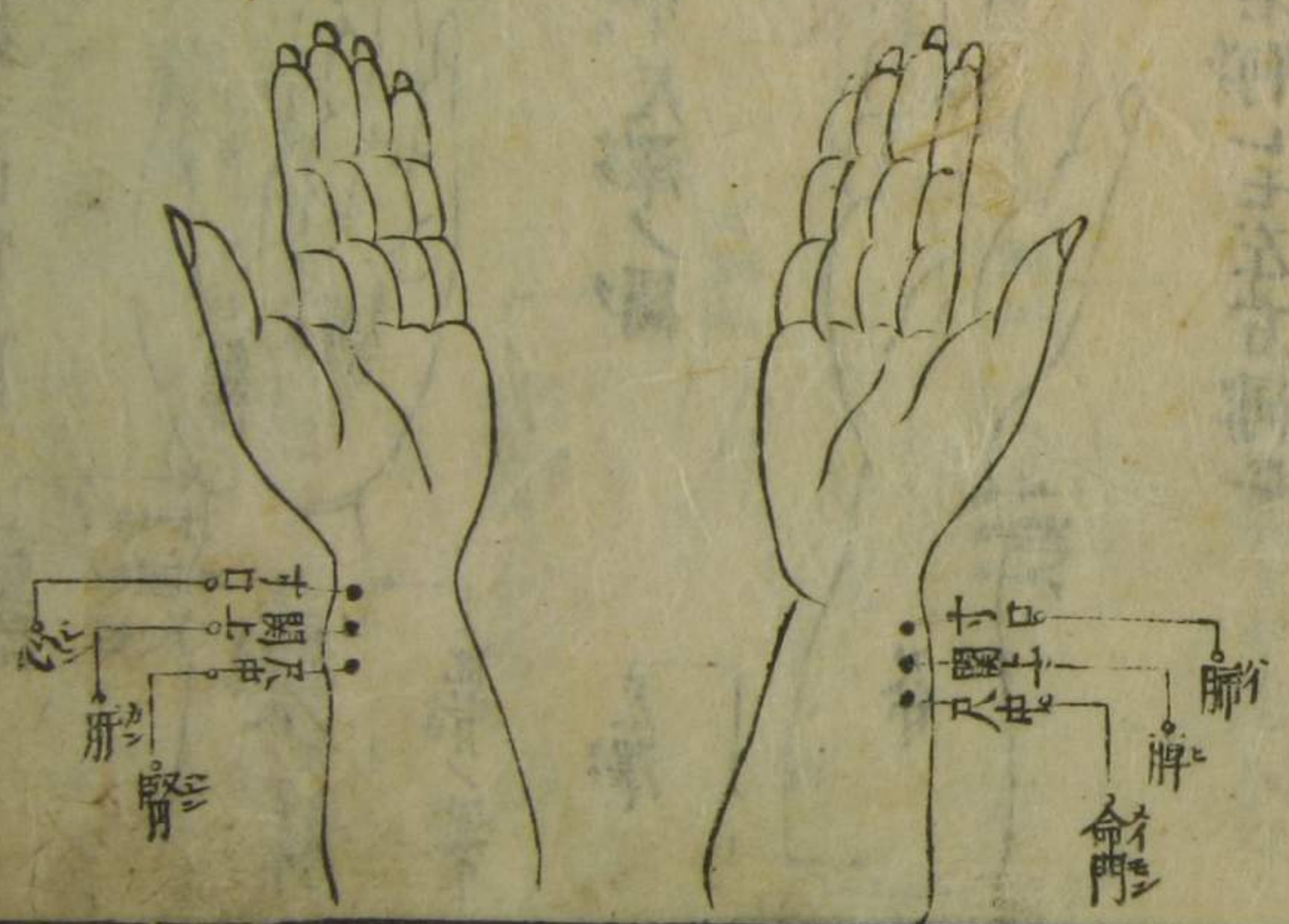
二十、尺寸髮際大推ノ定法 并 禁穴

以上目錄之終

手右

手左

兩手寸関尺三部ノ圖



掌後ノ高骨ノ圖

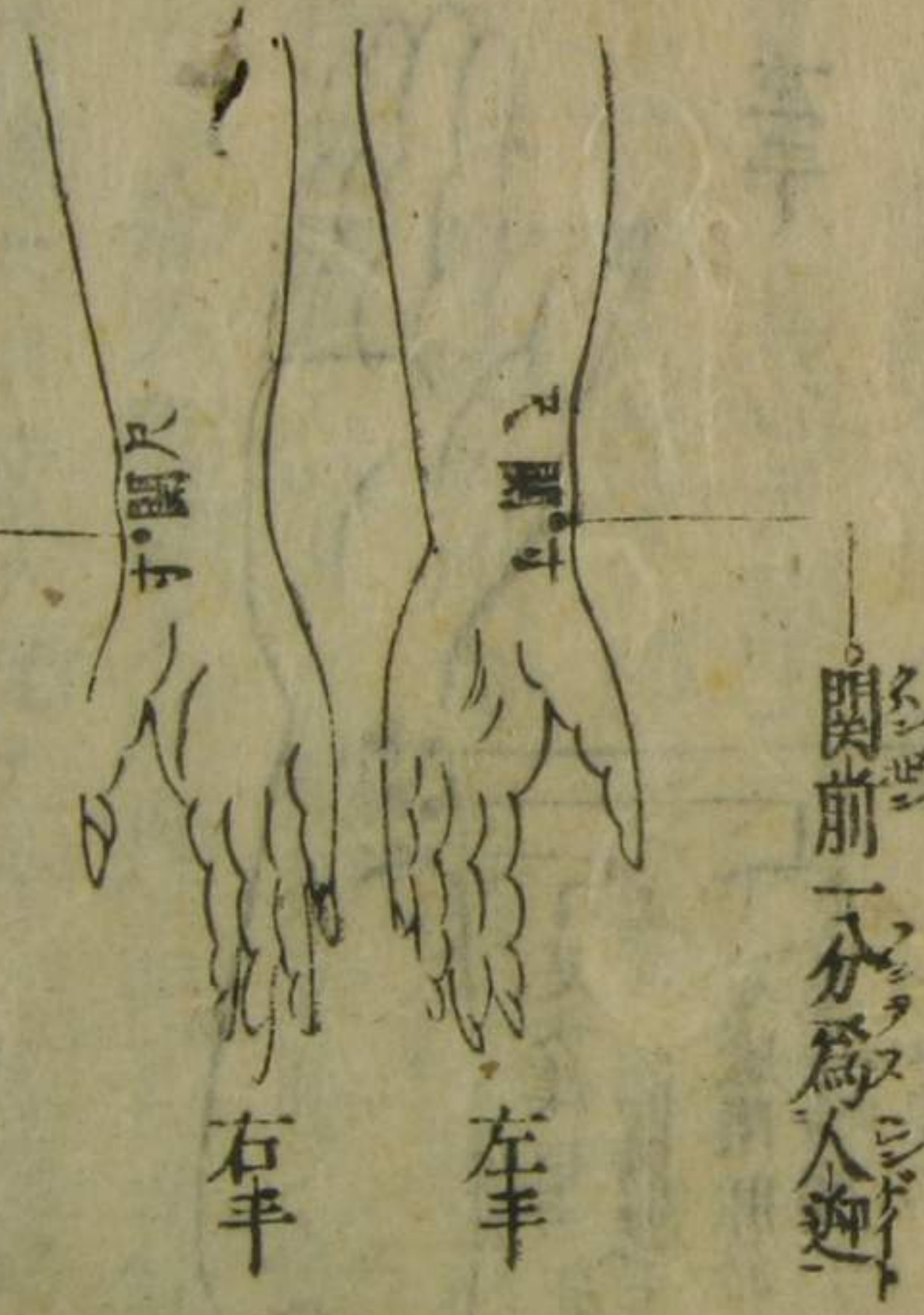


尺中尺澤ノ圖



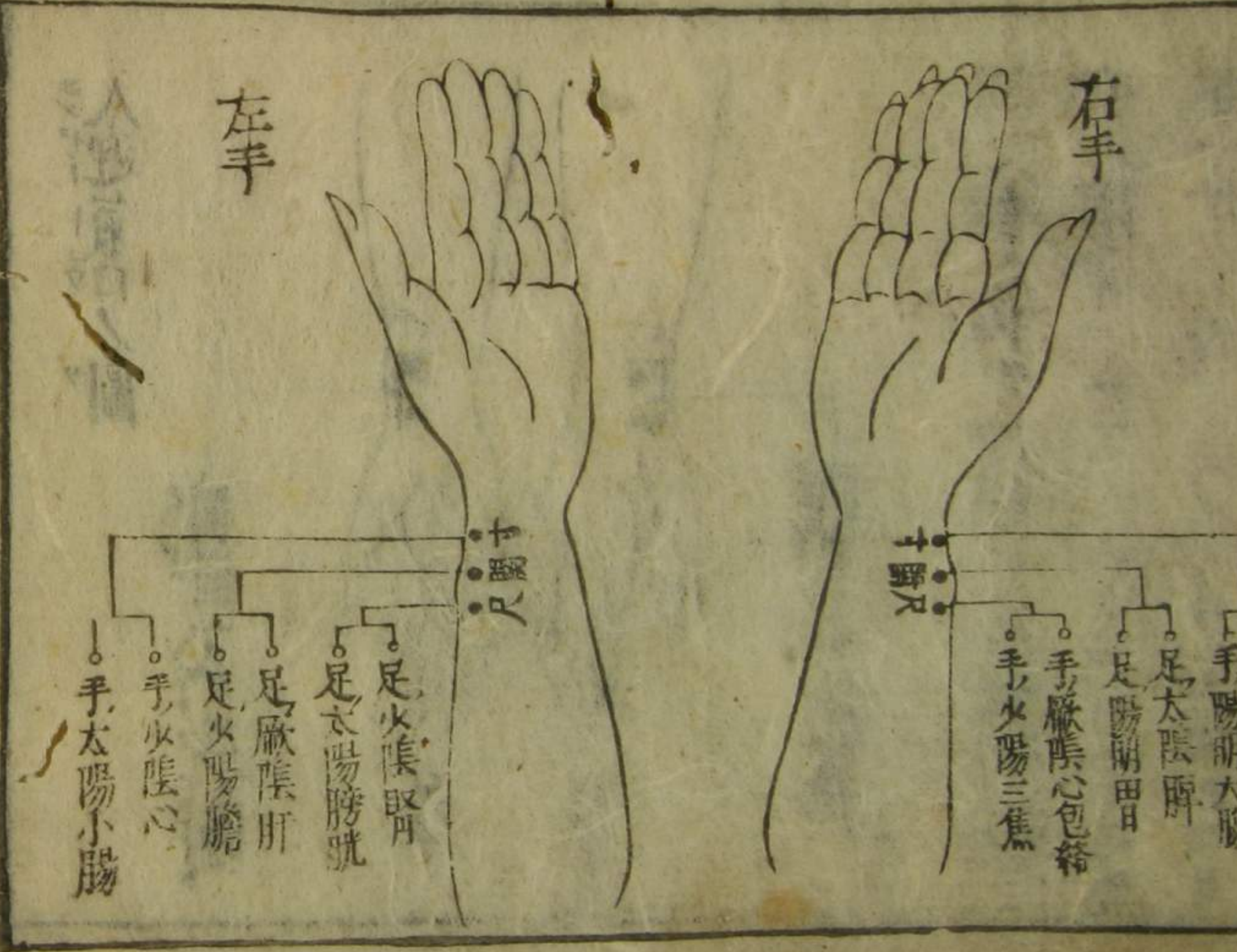
右何レモ左右同シ

人迎氣口ノ圖



古ハ喉ノ下ヲ人迎ト云也今ハ左手ノ関前一分ヲ人迎ト云右手ノ関前一分ヲ氣口ト云也晋ノ王叔和ヨリ以素始ル也後世是ヲ宗トシ貴也

十二經配當ノ圖



新鐫增補脈論口訣卷之五

○七診之法ノ事

△第一ニ其心ヲ靜ニスベシ是其神ノ存ル也

二ニ六外ノ意ヲ忘ルベシ是其思慮ノトキヲ云也

三ニ六呼吸ヲ均クシ是其息ヲ定ム也

指ヲ輕クメ皮膚ヲ開其肺脈ヲ探ル

五ニ指ヲ微重メ肌肉ノ間其胃氣

ヲ診六ニ指ヲ沈テ骨上其臟脈

ヲ診七ニ病人ノ脈息數未ヲ察

○男女ノ左右

△男子ハ陽ナル故ニ左手ヨリ診女子ハ陰ナル故ニ右手ヨリ診

○寸関尺定位ノ事

△凡人ノ脈ヲ診スルニ先醫者ノ中指ヲ高骨ノ下ニアニテ是ヲ

指ヲ高骨ノ下ニアニテ是ヲ

関ノ位ト定メ人指エビヲ口ニ
當次ニ無名指ヲ尺部ニ當ル是
寸關尺不易ノ定位也

○寸關尺ノ事

△脉處三部ニ定ルハ秦越人ヨリ
始ル事也人ノ手肘ノヲレカ、ミラ
横筋ヨリ腕クビノ内ノ横文ニテ
一尺ト定メ是ヲ十二分テ肘ノ方
ヨリ九分取テ是ヲ尺ト云又腕
ノ方ニ一寸殘ル是ヲ又十二分テ
魚際ノ方ヨリ十ノ一分ヲ一寸ト
云テ是ヲ寸ト名ク或説ニ肘
ヨリ腕ニテ一尺一寸ト定メ肘ヨ
一尺トリテ是ヲ尺澤トスアリ

不可用一尺ニ定メキニ於テ九
分ヲ尺澤ト云殘ル一寸ヲ又十二
分ケ此内九歩ヲ寸ノ内ノ尺ト
云尺一寸トノ正中ヲ關ト云是
掌後ノ高骨也孫思邈曰從肘
腕中横文至掌魚際後文却而
寸分之而入取九分是爲尺從魚
際後文却還度取十分之一則寸
寸十分之而入取九分之中則寸
口也ト是定論ナリ

△半井流切紙曰寸關尺ト云事昔
ノ人長高キ事當代ニ越タリ腕
ノ内大縮ヨリ手頸ニテ昔人ハ一
尺一寸ナリ然ル間寸脉ト云関脉

八尺一寸ノ間ノ関ナリ。尺脈
八尺ノ内ナル故ニ。尺脈ト云ナリ。
一尺一寸ノ間ニ高骨ト云骨アリ。
其骨ノ上ヲ取ニ非ス其骨ヲ探
得テ指ヲ尺ノ中ヘラロス也。高骨
ニヒツソヘテ。指ヲアツル也。此条他家
ニ高骨ノ上ヲ診ト云。大ニ誤ナリ。
半井道三其子春蘭軒澄玄ヨリ
予ニ傳ニテ。羽月ノ第一也。王寂和
脈訣ニ掌後ノ高骨ヲ関ト号ス。
骨下関脈形宛然タリト。此条明
也。骨下トアルニテ高骨ノ下ト
定也。宛ハクホカナル所也。
○密排陳撰ト云事

△人ニ長短肥瘦ノ相違アリ。手ノ
長キ人ハ指ヲアラケテ診手ノ短キ
人ニハ。指ヲヨセテ脈ヲ診也。是丁
徳用之法也。然リトイヘ凡。醫者ニ
ヨリ指ノフトキホソキ有詳ナリ
トセス。考ヘレルヘキナリ

呼吸定息ノ事

△先曉眠ノサメタラン時。我平生ノ
脈ヲ診覺ス。キナリ。出息ヲ呼ト
云。呼ノ間ニ脈ニ動入息ヲ吸ト云。
吸ノ間ニ脈ニ動。是ヲ四動ノ脈ト云。
呼吸ノ二氣ヲ合テ一息ト云。一息ノ
間ニ四動ヲ常ノ平脈ト云。若四動云
餘リ五動ニハ不足。是ヲ四動半ノ脈

ト云難經初卷ニ定息ノ脈一動ナ
ル時ハ五動トアリ此一動ト云ハ
呼吸ノ間ニ一動アルヲ云合ニ五動也
是胃ノ氣アリテ無病ノ人ノ脈ナル
ヘシ息ノ間ニ五動半ハ陰氣力々々
ル人歟然ラスハ風氣ノ間隔ニアル
人ナルベシ息ノ間ニ六動ニ及ハ初
テ病ヲ得ル人ナルベシ風氣ノ類
是也○素問平人論曰人一呼脈
行三寸一吸脈行三寸呼吸定息
六脈行六寸也出凡息入凡息合
テ一日一夜ニ一万三千五百息有
脈行八百寸丈ナガル、一也又
紫衛ト云ハ榮ハ血ナリ衛ハ氣

ナリ。氣ハ血ト並ビテ一身ヲナガ
ル、一也。凡ハ外ヲナガル、一五十
度夜ハ内ヲナガル、一五十度也
故ニ五十度ニシテ又手太陰肺ニ
會シテ流レハレル也○靈樞經脈別
論曰肺朝百脈ト云ヘリ。朝コトニ手
太陰肺ヨリ流レハシリテ足厥陰肝
ニ流レ終ルナリ。故ニ朝脈ト云歟難
經初卷ニ見ヘタリ。脈ノ安重々有
之陽脈ニ七種ナリ。七表ノ脈ト云。
陰脈ニ八種アリ。八裡ノ脈ト云。陰
陽取合テ九種アリ。九道ノ脈ト云。
此七表八裡九道合テ二十四節ニ
傍トル也表ハ外ニテ陽ニ属ス裡ハ

内ニテ陰ニ属ス是ヲ集レハ則浮
沈遲數ノ四ノ外ハナニ則脈ノ大
抵也若虫氣ナル人ハ脾臟ニ心
付ルニ虫ノ侵ス時ハ脾ニ緊脈ア
ル也風氣ノ人ハ肺臟ニ心ヲ付ルニ
風氣ノ時ハ肺ニ專ラ浮脈アル也
熱氣ナル人ハ心臓ニ心ヲ付ルニ熱
ノ時ハ心ニ數脈アル也摠テ脈ノ屬
實寒熱表裡陰陽ノ分別此一言ノ
下ヨリ窺入テ淺ヨリ深キニ至ルベシ

○三部九候ノ事

△三部トハ右ニ云寸口関上尺中ナリ
手頸ノ對ノ際ヲ寸口ノ脈ト云ナリ
九候ト寸関尺ニ各浮中沈ノ三ヲ

候ヒヤウアリ是ヲ九候ト云也
寸関尺三部左右トモニ按ヤウ輕
重アリ先初テ指ヲアツル時三候
ノ重サノ知クト云テカロク救三粒
ノ重サノ如クトリテ被毛ヲ候是
肺ヲ知ナリ又六候ノ重サニ按テ
血ノ虛實ヲ候フ是心ノ部也凡
候ノ重サニ按テ肌内ヲレル是脾ノ
部也又十二候ノ重サニ按テ筋ヲ
知肝ノ部也又十五候ノ重サニ按テ
骨ヲ知是腎也人ハ皮ノ下ニ血アリ
其下ニ筋アリ其下ニ骨アリ故ニ脈ノ診ヤウ次第ニ
重クトリテ試ル一肝要ナリ

○左手ノ候

△先三指ヲ浮ベテ左ハ小腸膽脾ノ
腑ノ脉ヲ候フ也。次二三指ヲレツメ
テ心肝腎ノ臟ノ脉ヲ候ヒ。次二三指
ヲ中程ニクツロケ。浮ニアラス。沉ニア
ラス。中程ニカヨウ胃氣ヲウカフ。左
ハ心ハ血ハ筋ハ筋十二救腎ハ骨
十五救。如此ナル故ニ腑脉ヲ候フ時
モ上次第ニカロク。下次第ニラモク
押也。又臟脉ヲ候フ時モ。其次第
アルベシ。又中ノ胃氣ヲ候トキモ。其
次第ワスルベカラズ。

○右手ノ候

△右ハ大腸胃三焦ノ腑脉ヲ三指ヲ浮
テ候フ。次二三指ヲ沉メテ肺脾命
門ノ臟脉ヲ候フ。次二三指ヲ中程
ニクツロケ。浮ナラス。沉ナラス。レ
胃氣ヲウカフ。右ハ肺ハ皮ニ救肝ハ
筋ニ救命門ハ骨十五救。如此ナル故
ニ腑脉ヲ候フトキモ。上次第ニ輕
ク下次第ニラモク押也。又臟脉ヲ
候フ時モ。其次第アルベシ。又中ノ胃
氣ヲ候フ時モ。其次第必アルベシ。

○浮沉ノ差別

△浮ハ六腑也。沉ハ六臟ノ条明ケシ。浮
中沉ノ三路ト云時ハ胃ノ氣ノ事也。
中程ニ押試ルヲ何ト心得ヘキ歟。其
其コソ脉ノフクラ。即胃氣ナレ。胃氣

トハ人食之ノ氣六脉壯ナルヲ以テ
 脉ノカトナル故ニ脉ノ摠腑ハ胃
 腑ノ氣ノ動ク也故ニ脉ノ中腹ハ
 胃ノ氣也中腹トハ浮ト沉トノ間
 事也其胃ノ氣少キ時病タユル時
 ハ死ト可知長病ノ不食或ハ久病
 或ハ老人ニ胃ノ氣絶ル多シ肺ノ
 位上心ヲ付テ診テ秘事也右ノ
 寸口ノ儀也肺脉細クナリ幽ナ
 ラハ死期近付ト可知也但若キ
 人卒病ニ胃ノ氣ノ沙汰不可有
 三部共ニ浮ニアハ陽病沉ニア
 ハ陰病也傍テ病表裡陰陽ヲ
 心ニカケテ虛實寒熱ヲ分ルセバ

治療ノ誤不可有其虛實寒熱表裡
 陰陽ヲハ浮沉遲數ノ四ヲ分別スル
 也其四ヲ辨スルハ蒼石ノ黑白ヲ具カ
 如クナルヲ不屬心於此道故ニ治療
 ニ迷フ又曰師傳ナキニ依テ如此其
 四ノ分別トハ浮ト沉ト是脉ノ二壯也
 遲ト數ト是動數ヲ云遲ト早ト也
 其四ノ分別トハ

浮ハ中風也陽也表也皮膚也虛也一切ノ風也

沉ハ濕也陰也裏也實也臟也

遲ハ血虛也氣虛也冷也靜也陰也裡也

數ハ燥也陽也表也一切ノ熱也一切ノ腫物有

以上是ヲ以テ一切ノ病ヲ分別ス

〇五臟ノ七神

七神トハ 魂 魄 神 意 知 精 志 也
 各五藏ニカクス也。肝ハ魂ヲ藏シ
 肺ハ魄ヲ藏シ。心ハ神ヲ藏シ。脾ハ
 意ト知トヲ藏シ。腎ハ精ト志トヲ
 藏ス。難經三十四云 藏ハ人ノ神氣
 ヲサメカクス故ニ藏ト云。神ハ靈也
 委ハ靈樞本神篇ニ有。○五臟ニ各
 聲色臭味アリ

- 肝ハ 青 臊 酸 呼 泣
- 心ハ 赤 焦 苦 言 汗
- 脾ハ 黃 香 甘 歌 涎
- 肺ハ 白 腥 辛 哭 涕
- 腎ハ 黑 腐 鹹 呻 嚙

○脈ノ按様ノ事

△浮中沉ト按初ハ浮ヲ按浮ノ位也

又中ニ按ハ胃ノ氣ノ意持也又強ク

スハ沉也以上浮中沉ト試テ後腎

ノ脈ヲ骨ニ至テ按也強ク押也

脈書目ニモ腎ハ押テ骨ニ至ト有

○浮脈沉脈人ニヨリ各別相違ノ度

アリ肥タル者ハ脈沉三瘦タル者ハ

脈浮ズ又上膈下膈ノ分チアリ

惣テ脈ノ意得アリ一切ノ病人沉
 細遲ヲ吉トス。四動或ハ四動半ハ
 吉也浮大洪數ヲ不好トス五動半
 六動ヲ病脈トス惣テ冷ノ心アル治
 シ易キ子細アリ

○胃氣ノ脈ノ事

△難經十五難二詳二出タリ。然レドモ
意得カヌキ条數以也。當流胃氣ノ
習明白ニシテ此条々最至寶タリ。
胃氣トハ肺脈ヲ本トス長病ノ人
脈臟ノ脈連々ニ弱ク幽ニ成テハ
ソハト指ニ當ル心アリ。此一脈ニ心
ヲ深ク入テ可試也。但胃氣ノ沙汰
ハ若年或五日十日病ニハナレ侍ノ
煩モ久病勞瘵久痢腎虛老人等
ニ必可有之胃氣ノ脈幽ナラバ死近
付ト知リ。絶タラバ急死ト可知也
胃氣絶スルトキ病人ノ鼻少シユ
カム也。又食前食後ニ習アリ。夕トハ
朝食以前ニ脈浮盛洪數ニモアレカ

アリテ。食後ニ又診脈スルニ沈細
遲ニモアレカ。ナクハ胃氣スクナシ
ト可知。又食前ヨリ食後ノ脈タシ
カニハル心アラバ胃氣アリト可知。
又曰傳胃氣ノ脈ヲ押試テ指ヲ邪
アト少クボム。是亦胃氣スクナシト
可知。又指ヲヒケ尺クボニナキハ胃
氣アル也。但脹滿或腫タル病ハス
ト付更太法ナリ各別也。

○諸病輕重ノ事

△此条當流秘傳也。脈ヲ診ニ病人
ノ手ヲ此方ノ手ニ置時重ク覺ヘガ
ナキヤウニアル。是重病ニアリ。又病
輕ク或驗氣ヲ得ル病者ハ此方ノ手

ニ置時次第ニ輕久或ハウキヤカニ覺ル也。是長病老者ノ沙汰也。是半井家秘密也。

○男女ノ元氣

△父母ノ交リヲ感シ男子ハ陽ヲ種トシテ初ル故ニ右尺命門ノ相火ヲ元氣トス。女子ハ陰ヲ種トシテ初ル故ニ左尺ノ腎水ヲ元氣トス。然ル間男子ハ火ヲ元氣トシテ生故ニ氣ヲ專要トス。女子ハ水ヲ原氣トシテ生ル。故ニ血ヲ專要トス。

○男女ノ分別

△男ハ陽氣ヲ種トシテ生スル。故ニ法次下ヨリ上ライトナム。上部ハ軟大ニ

又中部ハ中大ニ。又下部ハ沉軟ナル也。女ハ陰血ヲ種トシテ生ル。故ニ法水上ヨリ下ライトナム。故ニ上部ハ軟弱中部ハ中軟下部ハ濡滑ナルガ吉。女子男子ノ脉ヲ得ハ陰血虛シ陽氣實強ノ病者也。男子女子ノ脉ヲ得ハ陰血虛シ陽氣虛シ風寒ニカンシ安ク寒汗出ル人ナリ。○難經十九曰男ハ右腎ヲ命門トシ女ハ左腎ヲ命門トス。黎居士曰男ハ陽也故ニ陽ヲ得テ生ズ。右腎ヨリ始ル。是命ノハジニル門ナリ。女ハ陰也故ニ陰ヲ得テ生ズ。左腎ヨリハジニル。是命ノ門ナリ。男

女トモニ。是ヨリ生レハジニルニ依
テ命門ト云也。○口訣ニ曰。男ノ
脈ニ女ノ脈アラバ氣虛腎虛。或ハ
連々ニ氣盡弱キ人ナルベシ。是常ニ
心重キ病者ト可知。女ノ脈ト云ハイ
カニモ沉細ニシテ。是陰氣ナル人
也。木好事ナリ。女ノ脈ニ男ノ脈ア
ラハ氣盛ニ短氣ナル人成ベシ。男ノ
脈ト云ハ浮大。強洪ノ心アル也。陽氣
ナル人ナルベシ。血氣盛ナル人。是
モ不好ノ脈也。

○左右ノ血液氣息

△道ニノ脈書ニ。左ハ心ハ血ヲ出ス。
肝ハ血ヲ納ム。腎ハ真水精汁然ル

間在血液精汁ヲ相調順流セ

シカハカザル様ニ覺悟スヘシ

右ハ脾ハ氣ヲ出シ。脾ハ穀氣ヲ化ス。

命門ハ氣ヲサム。然ル間右ハ氣

息原氣ヲ調順行セシメ。滯リ

結レサル様ニ覺悟スヘシ。又左右

俱ニ浮沉中ヲ能ク。拳按シテ。濡六

和本ナルヲ胃ノ氣ト心得ヘシ。橋ニ

緊張偏ニ。細弱。偏ニ浮洪。偏ニ沉

小ナルヲ。胃ノ氣ノ不足ト心得ヘシ

○左右ノ診察外感內傷

△脈書ニ曰。病者ノ脈ヲカマフテ。外
感內傷ヲ辨スル。一專要也。左ノ
寸ト開トノ間ヲ人迎ト云。其人迎

ヲサグルニ二段脈緊實ナラハ外感ノ
病トシレ。右ノ寸ト關トノ間ヲ氣口
ト云其氣口ヲウカ、ラニ實強ナラバ
内傷ノ病ト知ヘシ。口訣曰左ノ手ノ
寸ト關トノ間ヲ人迎ト云片偏ニ天
ナルハ外邪ノ病也。右ノ手ノ寸ト關
トノ間ヲ氣口ト云片偏ニ大ナルハ
傷ノ病也。内傷ニモ氣ヲツクシ心ヲク
ルシメル人ナラバ氣ヲ順シ降シ散シ滲
飲太食ナラバ腸胃ヲ調ヤレナラベシ
腎虛ニタル人ナラバ腎ヲ潤シ血ヲ益
ヘシ。此分別ハ男女ノカハリナレ外邪ニテ
浮洪ナラバ風邪トス。汗ヲ出スベシ。又緊
瀉寒チラハ寒邪トス。發散スベシ。

滿數ナラハ暑邪トス。サマズベシ。沈
瀉チラハ濕邪トス。小便ナトヲ通ス
ベシ。人迎ハ脈書ニモ右手ノ關前
一分也トアリ。必竟前ニ云ノ如ク寸ト
關トノ中ニ指ヲ置是ヲ人迎ト意ヘ
ヨキ也。カタク偏ニ大ナルトハ氣口ノ
脈ニ對シテ云フナリ。氣口ノ脈ヨリモ
偏ニ大ナルハト云也。外邪トハ寸トヨリ
入タル病也。タトハ寒暑濕風ノ類ヲ
カサレタル病ハ人迎ノ脈大ナルト云也。
氣口ト云モ寸ト關トノ中ニ指ヲ置也。
右ヲ人迎左ヲ氣口ト云也。カタク大
ナルモ人迎ノ脈ニ對シテ人迎ヨリモ
大ナルハ内傷ノ病也ト云フ也。内ヨリ

脈經卷之二

傷レタル病也。飲食ノ飢飽ヨリ。或七情ノ過傷ニヨリ病トナリタルハ氣口ノ脈大ナリト云ナリ。人迎氣口ニハ男女ノワカチナシ。

○人迎氣口ノ候

△人迎ノ脈ニテ天ノ六氣寒暑燥濕。風火ノ外ヨリ感スルヲ候フ。

○浮ニシテ盛ナルトキハ傷風。○緊ラ盛ナルハ傷寒。○虛弱ナルトキハ傷暑。○沉細ナルトキハ傷濕。○虛數ナルトキハ傷熱也。

△氣口ノ脈ハ人ノ七情喜怒憂思悲恐驚馬ノ内ヨリ傷レタルヲ候フ。

○喜ヨリキハ脈散ズ。○怒トキハ脈激フ。

○憂ハ脈濡。○思者脈結。○悲者脈急。○恐者脈沈。○驚者脈動也。

△人迎ノ脈盛ナルトキ右ノ氣口ヨリ一倍大ナル時ハ外ヨリ感ジタル病ト知風ト寒トノ類也。皆表ナリ。

△氣口ノ脈大ナルトキ左ノ人迎ヨリ一倍ニシテ緊盛ナラハ氣傷。或ハ勞倦トシテ心ノ裏ヨリ傷ル也。陰藏トスル也。

△人迎氣口俱ニ緊盛ノ脈ハ此食傷也。寒ニ傷レタル病也。是外感内傷ト云也。

△男子久病ニ氣口ノ脈人迎ヨリ大ナル胃ノ氣有。

△女子久病ニ人迎ノ脈氣口ヨリ大ナルハ血ヲ氣アリ。病ヲモレト云ヘ氏治ス。

べし是ニ相反ノ脈ハ死スベシ

○榮衛ト云事

△榮血衛氣ト云テ。脈道ヲ行モ
ハ血ト氣トノ二ツ也。榮ハ脈中ヲ
ユキ。衛ハ脈外ヲ行クナリ。先指ヲ
輕クシテ寸関尺ニアツルニ浮テ
流レカヨフ物ハ衛氣ナリ。其ヲ少
按シテミルニカアルハ氣ノ實スル人
也。按ニカナク指ノ下ウツカリトシ
タルハ氣ノ虛スル也。已上ハ衛氣ノ
カヨイテ流レナリ
△血ノ流ラウカフニ指ノ腹ニタクク
當テ流ル物ハ榮血也。少シ重ク按
テニルニカ有ハ血ノ實スル也。按ニ
カナクテユルハ血ノ虛ナリ

右此ニ別ニテ血氣陰陽虛實ヲ

辨ニ補瀉ノ療治ス榮衛ノ事ハカク
ニキ一ニアラス

辨ハ外經榮衛生會篇
論榮氣行營氣篇ニ見ユ

○氣血ノ虛實ヲ知事

△指ヲ浮テ摸ルニ指ノ腹ニ浮ヒ通
フ者アリ是ハ氣ノ往來也。ツレラ
押テ見ルニカ有テ大ナルハ氣ノ實シ
タルナリ。氣實ニハ陳皮 枳殼 枳實
白朮 然ル故ハ衛氣ハ經脈ノ間ヲ
遊ル押テ見ルニカナク弱ク消ル者ナ
ルハ氣虛シタル也。氣虛ニハ代神丹
黃芪浮ヒテタダリ表ヲ溫メ守ル者也。故
ニ脈モ亦浮ニトトリ試ル也。指ヲ火
沉メテ榮ヲ摸ルニ指ノ腹ニ流レ通フ

者アリ是ハ血ノ流通ナリツレヲ
次第ニ押テ見ルニガアリテ滑ナル
ハ血ノ實シタル也血實ニハ肝心脾肺
香附子ノレヲ押テ見ルニガナク澁リ
滑ル様ナルハ血ノ虚シタルナリ血
虚ニハ麥芽 兩桂然ル故ハ榮血ハ
經脈ノ間ヲ沉テ流ル、故ニ脈モ又
沉ニシテ診試ル也○氣トハ一身ノ
陽氣表ヲメクリテ人ヲ守護スル
者也氣ハ外ヲ主ル事也○血トハ一
身ノ陰也陰ハ裏ヲ流テ内ヲ主ル
也虚トハウツケタル心ナリタトハ物
ナキヲムナレキト云如ク氣血ノスナ
クナリ或ハヘリ或ハ減シタルヲ虚ト

云也實トハ物ノアミリアル心也三
ノトヨミニテ菓或ハ五穀ナドノヨ
クミノ入タルヲニルト云フ其如ク
氣血ニガアミリアル義也然レハ虚
實共ニ病トナル平人ハ虚シモセズ
實シモセズ是ヲ無病ノ人トハ申ナリ
○遲數寒熱ノ辨

△脈書曰脈ノ遲數ヲ辨メ寒熱ヲ
定ムベシ一息ノ間二四動或五動打
ハ平脈トス六動七動ヲ熱トス三動
ヲ寒トス八動九動ヲ熱フカレトス
十動ハ甚寒ナリトス十動以上ハ
熱ノ極リトス脈是死ニ息ニ二動ニ
息ニ一動ハ寒ノ極リトス○又曰ク一

息ノ間三四動打ハ平脈也。少壯ノ人
 八四動半五動モ打也。老衰ノ人八四
 動ヨリ違キモアリ平脈ヨリ次第
 ニ遠キヲ數ナリトス熱氣ノ脈ナリ
 平脈ヨリ漸クツソキヲ違脈ト云
 シ寒タルノ脈也。又云平脈ニテ
 モ實強洪大ナルハ熱トス四五動
 平脈ニテモ虛弱微小ナルハ寒ト
 ス六七動有テ浮大ニレテ押バカ
 ナクナルヲ表熱トス發散スベキ也
陳皮 葛根 此類可用○又六七
紫菀動打テが實ニテ浮テカイナクナル
 ヲ表熱トス内ヲサニスヘシ黃芩 柴胡 枳殼 大黃
 此類ニテヒマセ四動ヨリ違クツ

浮輻モレテ押テナキハ内ノ冷也
此類ニテ温メヨ四動ヨリ違
 クレテ細ク沉テ浮ノテナキハ外ノ
 寒ナリ黃芩 枳殼此類ヨロシ

寒熱往來ノ事

寒往來ト云サムケダチテ後アツク
 ナリ或先ホメキ後サムクナルヲ
 云俗ニヲコリサメト云フ類也
 ノ閉脈沉弦ニレテ數ナルニ肺時
 往ノ地骨飲ノルイヨロレ夜中ノ潮
 熱也レホノサアコトク手右ノ閉脈沉弦
 ニレテ數ナルハ曉天午前潮熱也
 肺ヲ主ル白虎湯ノ類ヨロシ
 △飲食傷ノ事脾胃ノ傷ニハ白朮 宿破

宿食ニハ 厚朴 枳殼 煨榔子 此類也

七情ニ傷ラルハ 喜怒憂思悲恐驚 都テ氣ヲ煩也

氣ヲ散ニハ 紫蘇 陳皮 香附 降ニハ

香附子 檳榔子 枳殼 補ニハ 當歸 人參

順ニハ 人參 陳香 枳殼 此類ヨリ

○緊脈有処而痛処ヲ知事

緊脈ノ位ノ一ハ 與ノ二十四脈ノ部ニ有

左寸口緊ハ左ノ心ノ痛ム 當歸 地黃 肉桂 香附子 此類ニ

右寸口緊ハ右ノ心ノ痛ム 當歸 地黃 枳殼 甘草 芍藥 宿砂

左關脈緊ハ左ノ肝ノ痛ム 半夏 良香 羌活 獨活 肉桂 當歸 同ク手ヲ

右關脈緊ハ右ノ肝ノ痛ム 良香 葡萄 獨活 羌活 瓜蒌 巴豆

左尺緊ハ左ノ腎ノ痛ム 半夏 良香 羌活 獨活 肉桂 當歸

右尺緊ハ右ノ腎ノ痛ム 良香 葡萄 獨活 羌活 瓜蒌 巴豆

良香 葡萄 獨活 羌活 瓜蒌 巴豆 此類ヲ用ユ

○弦脈ノ有処ニテ筋キツル辨

弦脈ノ位ハ 與ノ二十四脈ノ部ニアリ

寸口ノ弦ハ 頭暈ヒキツリ 柴胡 芍藥 枳殼 香附子

關上ノ弦ハ 心ノ痛ム 當歸 半夏 柴胡

尺中ノ弦ハ 腰イタミカツキ足 當歸 車前 沢泻 木通 羌活 牝伸 防己

○癥瘕積聚ノ事

脈常ヨリ火ニ遅クシテ是時々ノ動

ヅ、キル、ヲハ結脈トス左ナリ也

右ナリ也三部トモニ寸向脈ヲ多サレ

ズ伏脈ト云ヌ又兩手ノウチ左ナリ也

右ナリ也カタク脈ナキヲ單伏ト云

兩方ナカレ脈ナキヲ双伏ト云也

左ノ脈結スルカ伏スルカ世バ左ノ腹中
ニカタニリアリト可知柴胡。我朮
右ノ脈結スルカ伏スルカ世バ右ニ積ア
リト可知苦辛。人參。芍藥。我朮
兩上モニ結伏ナラハ腹中ニアルト可知
我朮。芍藥。半夏。茯苓。香薷。木香。神
寸ニ上レハ上ニアリ。関ニアレハ中ニアリ。
尺ニアレハ下ニアリ。氣ノ鬱結スルニヨ
ツテ。流通ノ津液アイ滯ツテ痰上成
也。其痰氣ノ鬱結ノ処ニ滯リトニル
脈ヲ診テ可知。浮テトレハ脈盛テ指
ニアタリカタク推テ見レバレツニ滑
ナル脈ナリ。上部ニ有ハ頭白芷。川芎。
手兼頰重。タイタ。キ物。カブリタ

如ク肩強リ羌活。獨活。咽喉ノ中ニ痰ツカ
ハ塞ルナリ。中部ニアレハ痰半夏。厚朴。枳殼。決實
中腕ニ有ハ外障ナレ不食ノ心アリ
自木 茯苓 飲食スレハラクヒタチスキ
香薷子
水口ノ中ニタミルベレ下部ニ有ハ脈
沉滯ニレテヨキ脈ナリ。浮テ滴實
大ナラハ黃柏。地黃。腎水ヘリ相タカフリ
下焦ニ火盛ンニレテ黃柏。地黃。太
氣カハキ大黃。地黃。板柳子。内ツリレリハ重キ
有ヘレ
△兩尺ノ診察。右ノ尺實弦ニレテ左ノ
尺濡弱ニレテ消ル如ク減ニ必足ホ
キ香附。黃柏。地骨皮。地黃。上氣。レヤスレ又左ノ尺
沉滯ニレテ右ノ尺微弱ニレテ有力無

カノ様ナル者ハ必足冷小使シケク
茴香 當歸 肉桂 山藥
モレヤスレ大便溼シ 莫 茱萸 黃連 茴香
ヤスレトシルベシ

○痰ノ鬱結所在ノ辨

△痰長流ノ水ノ如クニシテ順行ヲ貴
△ト大成論ニモ見ヘタリ痰ハ津液ノ
ノ化也津液ハ胃ノ府ヨリ飲食ノ氣
ヲ以テ五臟六府ヲ潤シ養フ物ヲ
津液ト云也或ハ火ノタメニサツハシテ
咽ニ上リ或ハ氣ノ凝滯ニヒカシテ
何方ニモ滯ルヲナリ鬱結ハ木ノ
ゲキ自ヲ云也

○氣血ノ虛實ヲ知ノ辨

△左ノ寸ハ心血ヲ主ル関ハ肝血ヲ主

△尺ハ精元水ヲ主ル以上三部血弱
精汁何レモウルヲイラ主ル故ニ軟
滑大ナル心良血ノ平ナル人也洪實
大數ナルハ血ノ實スル人ナリ。虛細沉
數ナルハ血虛ノ人也右ノ寸ハ肺氣ヲ
主ル関ハ脾胃也穀氣ヲ主ル処也
尺ハ相火ノ元氣ヲ主ル以上三部
ハ元氣穀氣呼吸ノ氣何レモ氣ヲ
主ル故ニ軟大微浮ナルハ心ヨリ氣
平ナル人也洪緊實弦ナルハ氣以
實ナル人也微沉虛弱ナルハ氣ノ虛
シタル人也

○右關脾脈ノ分別

△右關サノ三實大ナラズサノ三虛細ナラ

スヲ良トス 私云 右関ニカキラス左右
 三部共ニ大ナラズ沉ナラズ數ナラズ
 遲ナラズ是ヲ平脈トス何脈トモ
 手ノツケラレヌカヨキナリ何レノ
 脈トナリトモ各ノツキタハ皆痛脈
 也右関脈實大ニシテ強ナラハ必胸
 ツカヘ 枳實 腹脹ノ心アルベシ 白木 其上
 ニナシ不食有ト知ベシ 白木。芍藥。姜。黄。
 若其脈ニテヨク食事アリト云ハ必
 油病ノ心ニテ瘦ヘレ赤アマリニ
 味ナクシテ食シテモ消シカ子テ。
 食スレバ消シヤスカルベシト知也
 ○主客依匿ノ辨

△寸口ニ沉滑微短ノ脈見レテ十
 動ニ下動ノ間ニ若浮洪ノ陽脈一
 動ニ動大トシレハ見ルハ客陰太
 過ナルガ故ニ主脈カクレテ時ニア
 ラハルナリ

△尺中ニ浮滑長大ノ陽脈見レテ十
 動ニ下動ノ中ニモシ沉微ノ陰脈一
 動ニ動ジニシレハ見ルハ客陽邪
 太過ナルガ故ニ主脈カクレテ時
 ニニアラハルナリ

△寸口常ノ如ク陽脈見レテ時ニ一二
 動陰脈ノミシレハ出ルハ本陽イマダ
 虚在サル故ニ邪陰ノボルトイヘドモガ
 グレタズムナリ

△尺中二常ノ如ク陰脈見レテ。時ニ一ニ
動陽脈ノ一ニハリ出ルハ本陰イニダ
虚セザル故ニ邪陽下ルトイヘトモ方
クレタ、スムナリ

右療治ニ專イルフ也。客邪甚トシテ
主脈カクル、時ハ主氣ヲ補ヒ邪
氣ヲ瀉スベシ。主脈イニダ虚セズ客邪
ヒツカニカクシ居ル時ハ邪ヲ瀉シ退テ
少氣ヲ補フベシ。又寸口ノ脈ノ三ニ
見レテ。寸口ニ尺中ニ見レザルハ必
逆ノ氣可有。此逆ノ氣ナク死
スベシ。元氣絶レタル故ナリ。尺中ニ
三脈見レテ。寸口寸口ニ見レザルハ
寸ノ三苦レカラズ。元氣タビレキ故也

○結促ノ遠慮

△病脈往來ヲシクシテ。時々キル、
ヲ結脈ト云。或ハ往來畢クシテ。時
々キル、ヲ促脈ト云。聊尔ニ生死ヲ
定ムヘカラズ。深ク持脈ノ姿ヲ問キ
ハメ。又其人ノ盛衰ヲ分別シ。又ソノ
人ノ養生ヲ能慎ム人カ。懶惰懈怠チ
ル人カヲ遠慮シテ。何トナク始末ヲ
ヤハラゲ。能コトハルヘシ。初心ノ時ハ奇特
ニ脈ヲドリ分。病証ヲ妙ニ見アテ、
云アツルツレヲ一定トシ。三偏ニ意得テ。
其後度々ニ違ルフアリ。一定ヨカル
ベキラモ推見ス各ラツケテ。御任アレ
ナド廣言スベカラス。亦一定アレカルベキ

ヲモ推見ス各ツツク御功者ノ御療
治ニテハ又驗氣有ヘシト和力ニ可申ス

○左右ノ脈大小ノ辨

△惣シテ右ノ脈ハ張左ノ脈ハ不張ス
コレ沉ナル心ヨシ其故ハ人早天ヨリ
右手ヲ專ラ使フ故ニ右脈ハ張テ
浮ニ覺ル也左右大小同ジ脈ナス
右ノ脈弱キ也○内經曰天不足西
北地不滿東南故人右眼不如左
明左手足不如右強ト云ヘリ但
生得左ガツテノ人ハ各別也

○卧タル病人ノ診脈

△病人寢ナガラ手ヲサレ上テ脈
ヲトラスル一有然レハ血脉手ニ至

ラス。脈必沉細也。是沉細ニアラス。
寢ナガラ手ヲ差上ル故也。其時ニ
習アリ。病人ノ手ヲ押伏テ診ベシ
但貴人又ハ女房方ナドノ手ヲ伏
ル事憚アリ。其マ、診ヘシ。沉細ナル
脈ヲ能分別スル一第上也。沉細モ
沉細ニアラス。又病人一方ヘ計寢人
アリ。殊ニ積聚痰嗽ノ病ニアリ。然
則ハ數タル方沉細ニテ脈カタスリニ
覺ル也。其分別專要也

○病ニ不相應ノ脈ノ習

△久病或ハ瘦衰タル人。或老人婦人
血氣カシ。無力不食ノ人ノ脈ハ沉細
遲弱相應ナルヘシ。其人ノ脈洪大弦。

ノ心惡脈ト知ヘシ

△病人歲感ナル人。或ハ病モ久シカ
ラズ。食モ能進ム人。脈汎細。虛弱ナ
ラハ是亦不相應ノ脈也。但生得ノ
脈虛弱ノ人可有是惡脈ニアラ
ズ平脈ナルベシ持脈ノ心得又各別也
△十歳以テノ人ハ脈六七動ニテモ
平脈ナルベシ十歳ヨリハ六動計也
十五六歳ヨリハ大人ト同シ

○糸脈ト云事

△連歌ニ糸ノ付合ニ脈付ルト云是
ヲ世ニ誤テ糸脈ト云歟。内經并
諸注其外王叔和脈經等ニモ見
ズ俗醫書爾甚ノ説ナルベシ 卷終

XIII
心

